

とちぎ地域づくりビジョンについて（素案）

地域づくりの基本方向

【世界・日本の中のとちぎの役割と可能性】

- 首都圏と東北・北海道、太平洋と日本海の結節点にあり世界へつながる交通の要衝として人・モノ・情報の集積
- 内陸に位置し災害が少ない利点を活かした首都機能などのバックアップ機能
- 日照時間や豊かな自然に恵まれ再生可能エネルギーをはじめとしたエネルギーインフラの構築
- 活力ある都市地域と自然豊かな農山村地域のバランスよい配置

【基本的な考え方】

1 人口減少等の潮流を踏まえた地域づくり

- ①日常生活に必要な機能を集積した拠点づくりの推進
- ②各拠点、地域間のネットワーク化や市町間における互いの機能、特徴を活かした連携の推進
- ③地域のコミュニティ機能の強化等、生まれ育った地域でいつまでも愛着を持って暮らせるふるさとづくりの推進

2 災害や老朽化していくインフラに対応した強くてしなやかなとちぎづくり

- ①耐震化・長寿命化等による社会資本の強靱化の推進
- ②危機管理対応力の強化
- ③首都直下地震・南海トラフ地震等のバックアップ機能への対応

【とちぎらしさを活かす視点】

3 広域的な交流・連携と地域づくり

- ①首都圏と東北・北海道、太平洋と日本海の結節点であることや、東京にも近い地理的優位性の活用
- ②コリドールネットワークの更なる活用
- ③圏央道・北海道新幹線・リニア中央新幹線の開通、東京オリンピック・国体の開催等による国内・海外との交流の促進

4 産業(商工業・農業・林業・観光業)や地域資源を核とした地域づくり

- ①本県産業をより一層推進するための基盤整備や地域の伝統産業を核として歴史や文化、自然等の地域資源を踏まえた地域づくり
- ②物流の増加を見据えた産業拠点の充実

5 ICTの革新等に対応した地域づくり

- ①ICT活用による集落のネットワーク化
- ②ICT活用による物流の増加等を見据えた拠点の充実

6 新エネルギーの活用に対応したエコな地域づくり

- ①再生可能エネルギー等を活用した地域づくり
- ②エネルギーの分散化、電力自給率の向上

目指すべき地域の姿（21世紀の中頃を展望）

世界・日本の中のとちぎ

1 世界へつながる交通の要衝として、人・モノ・情報を呼び込むとちぎ

- ①コリドールネットワーク等を最大限活用し他県の拠点とも結びつき県外・世界へと広域交流・連携が拡大
- ②これまでの道路・鉄道に加え、圏央道・北海道新幹線・リニア中央新幹線の開通等により東北・北海道や西日本等からの人・モノ・情報の流れを受け止め発展

2 首都直下型地震等のバックアップ機能に対応したとちぎ

- ①東京に近く、災害が少ない利点を活かした首都機能などのバックアップ機能が充実

3 内陸型のエネルギーインフラが整備されたとちぎ

- ①再生可能エネルギーや分散型エネルギーの導入拡大による内陸型エネルギーインフラの整備促進

4 安全・安心な基盤が整う強靱なとちぎ

- ①社会資本の耐震化・長寿命化等により強靱化を推進し、安全・安心な基盤を次世代に継承

県内のネットワーク

1 地域交流・連携

- ①活力ある都市地域と自然豊かな農山村地域がバランスよく配置され活気あふれる地域
- ②市街地や基幹集落等を中心に、それぞれが持つ多様性を再構築し地域資源に磨きをかけ、規模や役割に応じて機能をバランスよく集約した拠点が形成
- ③各拠点間の公共交通ネットワークの充実等により、人・モノ・情報の流れを作り、圏域人口の確保、イノベーション・賑わいを創出し、活気ある地域が実現
- ④NPO、企業、住民、行政等多様な主体が連携・協働する地域

地域の魅力を活かす農山村

1 集落機能を集約しネットワーク化する農山村

- ①地域の核となる基幹集落を中心に日常生活に必要な機能等が集約化
- ②地域に応じた交通サービスやICTの活用などで集落間がネットワーク化
- ③NPO、企業、学生、移住者等新たな活力により、地域の暮らし・日常生活の支援が充実

2 地域資源を活かした活力ある農山村

- ①地域資源を活用した6次産業化やICTの活用等により若者に魅力のある働く場を創出
- ②グリーンツーリズムや都市との交流などにより、交流人口の増加や定住が拡大
- ③住民の交流が活発化し、癒しや憩いの場としての機能が充実するとともに、農山村が持っている豊かな自然や美しい景観、伝統文化や食、水源の涵養や土砂崩壊の防止機能などを維持

活力を創り出す都市

1 暮らしやすくコンパクトな都市

- ①既存市街地などが拠点化、各拠点間の相互補完が進展
- ②空き家、空き店舗の既存ストックも活用した街なかへの集住

2 誰もが安全でスムーズに移動できるネットワーク型の都市

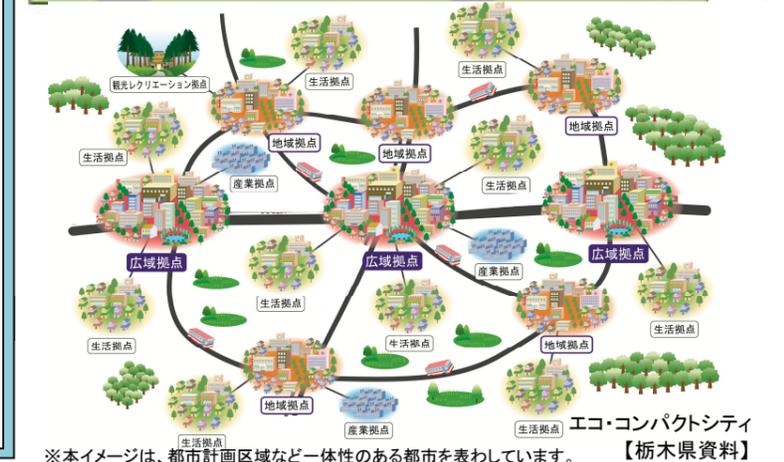
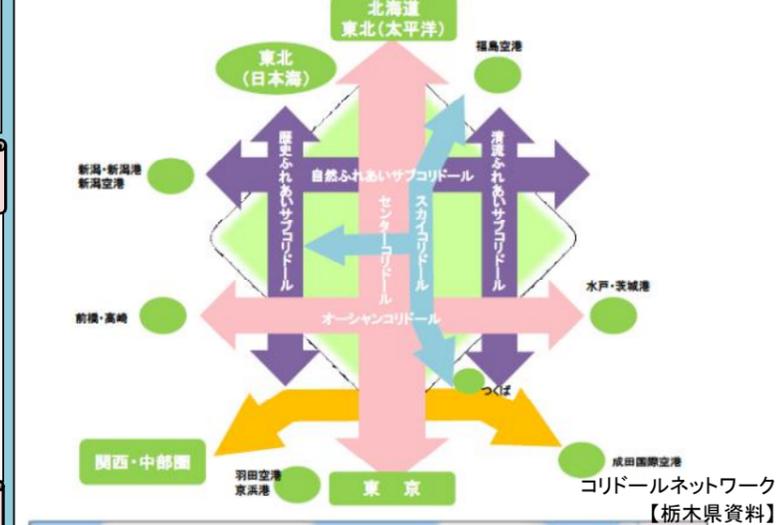
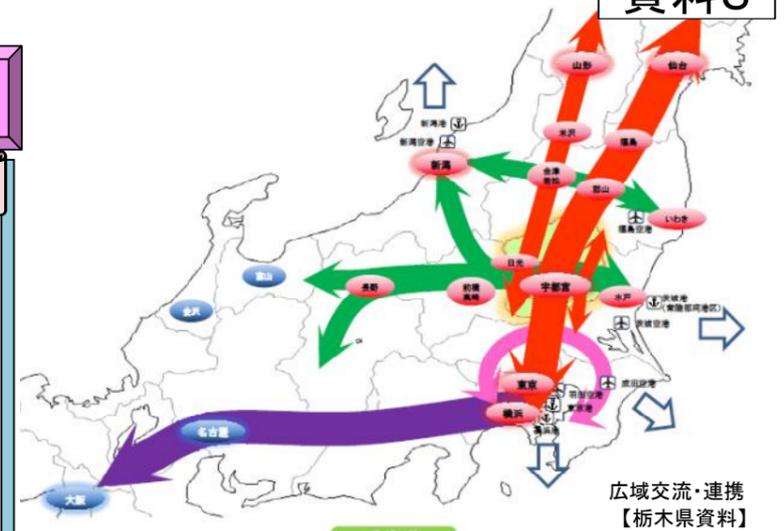
- ①地域内の拠点間を結ぶ公共交通ネットワークが充実・強化
- ②徒歩や自転車による移動性が向上

3 環境にもやさしいエコな都市

- ①公共交通の利用促進、再生可能エネルギーの有効活用によりスマートコミュニティが進展
- ②公共投資の重点化や社会資本の長寿命化などにより都市経営コストが低減

4 とちぎの魅力や強みを活かした都市

- ①恵まれた立地環境や優れた交通ネットワーク等の活用により新たな産業が集積
- ②観光地へのアクセスや周遊性が高まり、より一層観光立県が進展



※本イメージは、都市計画区域など一体性のある都市を表わしています。【栃木県資料】